

職域の保健師等が 「横のつながり」を持つ 貴重な機会となる研究会

一般財団法人 地方公務員安全衛生推進協会 企画課

「職域担当看護職研究会」は、地方公共団体において職員の健康管理を担当している保健師・看護師等が、職務上の課題解決や情報交流および意見交換を行う研究会です。

職域担当看護職研究会は、東京都特別区の保健師による自主的な勉強会として始まり、平成5年度からは当協会が事務局となっており、協会の事業として実施してきました。

研究会は関東地区、関西地区の2つに分かれ、それぞれの地区の職域保健師が幹事として企画等を行っています。各地区においてそれぞれ前期、後期の年2回ずつ開催しており、ストレスチェックや生活習慣病予防など、職務上の諸問題をテーマとして、専門家による講演やグループ討議を行い、解決策等の研究、討議、情報交換を行っています。

講演

研究会のテーマに合わせて、その分野の最先端で活躍されている有識者等を講師に迎えています。

事例発表

研究会のテーマについて、先進的な取組を行っている団体の事例発表を行っています。

グループ討議

それぞれの団体が抱えている課題を解決するため、情報や意見を交換します。これにより参加者同士が「横のつながり」を持つ貴重な機会となっています。

以下、29年度後期の研究会の様子をご紹介します。

関東地区

職場のメンタルヘルス 困難事例について考える

30年1月24日（水）、東京都千代田区内で開催された関東地区の研究会には、全国から92名の保健師・看護師等の参加がありました。

初めに幹事より、「地方公共団体においてもメンタルヘルスに関する問題は職員の健康管理をするうえで、重要な問題となっております。中でも、発達障害やパーソナリティ障害については、産業医に相談したり、療養休暇をとらせたりしても、すぐに解決するようなものではない。本人の特性を生かすためには、どう支援をしたらよいか考えてみたい」と、今回のテーマについて説明がありました。

グループ討議では、それぞれの職場で抱える問題、課題についてグループ内で情報共有し、解決に向けての方策等について、意見交換が行われました。職場において一人担当であることが多い職域の保健師等にとってグループ討議は、貴重な情報交換の機会でもあり、熱心に話を聞いたり、質問したりしている姿が印象的でした。



関東地区・研究会にて。グループ討議の様子

象的でした。

午後からは、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授の松崎一葉先生が講演。発達障害を含めメンタルヘルス問題を顕在化させないためには、職場の許容度を高めていく必要があることや、対応にあたっては、本人、職場、産業保健スタッフそれぞれの陰性感情への対処が重要であることなど、自身の経験なども交えたわかりやすい解説がありました。参加者からは「わかりやすくして深い内容だった」「客観的に違った視点から考える良い機会となり、自分の役割を改めて考えることができた」などの感想が寄せられました。

研究会の最後には、講演から得た知識や考え方を踏まえて、再度グループ討議を行い、それを各グループ

プの代表者が発表することで、研究会全体で情報共有を行いました。参加者からは「状況は違えども、困難事例を抱えているのはどこも同じ」「研究会で得た情報を職場や人事と共有したい」などの感想がありました。

関西地区

**職場不適応者への対応について
～適応障害の背景にあるもの～**

30年2月1日(木)、大阪市で開催された関西地区の研究会には、全国から84名の保健師・看護師等の参加がありました。

初めに幹事より、「周囲とうまく付き合えず職場で孤立している職員や、職場や業務に適応できていない職員について、各団体でも相談への対応方法に苦慮されていると思う。原因はさまざまだが、発達障害やパーソナリティ障害などがその背景にある場合もある。それらを含めた適応障害等の知識を学ぶだけでなく、実際に起きている職場での問題について、どのような対応をしていくべきか深めていきたい」と、今回のテーマについて説明がありました。

午前中には、2つの自治体から事例発表があり、グループに分かれ、課題や今後の対応について討議を行いました。

午後からは、花谷心療内科クリニック院長の花谷隆志先生が講演。メンタルヘルス不調の原因とその対応について、内因性のうつ、心因性のうつ状態、パーソナリティ障害、発達障害などそれぞれについて、事例を挙げ、ていねいな解説がありました。参加者からは「具体的な話が聴けて、非常に参考になった」などの感想が寄せられました。

講演後、改めてグループ討議を行い、事例検討の結果を各グループの代表者が発表。「人事など関係する職員と一緒にになって、事例



関西地区・研究会にて。グループ討議の様子

検討会を実施する」など、具体的な今後の方向性についても発表がありました。最後に、発表について花谷先生から、「大変対応が難しい事例で、個人で何とかできるような問題ではない。周囲や関係者を巻き込んで、組織的な対応を理性的に行っていくことが必要」など講評がありました。

おわりに

当研究会開催にあたり、幹事の皆様には、テーマの選定や当日の

進行等にご尽力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

30年度も7月頃に前期、31年2月頃に後期の研究会を関東地区、関西地区それぞれで予定しています。今後とも、協会と幹事で力を合わせて職員の健康管理にとって有意義な研究会を開催していきますので、より多くの職域担当看護職の方々のご参加をお待ちしております。

職域担当看護職研究会ホームページ
http://www.jai-sha.or.jp/schd/schd06

平成29年度	前期	関東地区	ストレスチェック制度2年目を迎えて
		関西地区	職場環境改善を効果的に進めるために
	後期	関東地区	職場のメンタルヘルス困難事例について考える
		関西地区	職場不適応者への対応について
平成28年度	前期	関東地区	職場のがん対策と職場支援
		関西地区	職員の生活習慣病（メンタル・身体の両面から）重症化予防を考える
	後期	関東地区	ストレスチェック制度を活用した職場環境改善と継続実施に向けて今後の課題とその対応
		関西地区	ストレスチェック実施後の課題
平成27年度	前期	関東地区	健康診断の事後指導を有効に行うためには
		関西地区	ストレスチェック制度とその先にあるもの
	後期	関東地区	ストレスチェックの結果を活かすために
		関西地区	ストレスチェック制度とその先にあるもの
平成26年度	前期	関東地区	がん患者の就労を支える産業保健師の役割
		関西地区	職場不適応の病理の理解とその具体的なサポートの仕方について
	後期	関東地区	職場の精神的な健康度を高めるために
		関西地区	快適な職場環境づくりのための働きかけ
平成25年度	前期	関東地区	がん検診の現状と今後の対策について
		関西地区	睡眠障害に着目したメンタルヘルス対策（一次予防）
	後期	関東地区	職場のメンタルヘルスの一次予防
		関西地区	職場のメンタルヘルス困難事例への対応について

■ 職域担当看護職研究会 研究テーマ一覧